

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	同志社大学				
取 組 名 称	相互啓発による創造的学力育成カリキュラム				
取組学部等	社会学部（社会学科・社会福祉学科・メディア学科・産業関係学科・教育文化学科）				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11175	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	キャリア		初年次教育	
キーワード	相互チュータリング, アイデア探求力, 論理構築力, コミュニケーション力, 創造的学力				

＜選定理由＞

本取組は、学生間の評価とチュータリング等の相互啓発により、学生の学力形成・向上に取り組んだプログラムとして高く評価できる。

特に、同級生間での相互評価や上級生による学習指導など学生の持つ潜在的可能性に着目していることや、これにより指導を受ける学生だけでなく指導を行う上級生にとっても学習を促す機会としていることは、学習意義の理解、学習意欲向上を促すものとして評価できる。

また、明確に設定された教育目的・目標の下、初年次の導入教育だけでなく、4年一貫での教育を設計し実施を図っている点も同様に評価できる。

ただし、

- ①「創造的学力」の具体的な内容が必ずしも明確になっていないこと
- ②上級生・大学院生によるチューター、アドバイザー制度を趣旨どおり機能させるためにさらなる配慮が必要であること（教員による丁寧な指導、学生チュータ等への研修の実施等）

という点で検討が必要と思われ、取組の実施にあたっては、これらの点に対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

同志社大学社会学部は、社会学・社会福祉学・メディア学・産業関係学・教育文化学の5学科を擁する、全国的に見ても専門教育カリキュラムが最も充実した社会学部であり、少人数教育という点でも恵まれた環境にあると自負している。今まで京田辺キャンパスの1・2年次生教育と今出川キャンパスでの3・4年次生教育に分かれていた教育体制が、全学に先がけて2009（平成21）年度より今出川キャンパスに統合されるこの機に、1・2年次生中心の基礎教育という固定観念から脱し、4年間の学士課程を通じて専門教育と並行させかつそれを高度化する基盤として、新たに創造的学力育成カリキュラムを編成する。そのために学部として共通の教育目的をさらに具体化し、今まで取り組んできた導入教育、学部共通科目、副専攻制度、卒業研究をより有機的に連関させていく。また教員が学生を一方向的に指導し評価するだけでなく、演習やプロジェクト科目を中心に学生の積極的参加を促し、学生が相互に啓発しあって成長できる相互チュータリングの仕組みをつくる。同級生の間での相互評価、上級一下級生の相互評価を行い、複眼的なものの見方を養うとともに、コミュニケーション力を高めつつ、学びのコミュニティを育てていく。

この取組は以下のような学部共通プログラムによって創造的学力を具体化する。

- (1) 初年次中心の導入教育（ファーストイヤーセミナーおよび学部共通科目において）
 - a. 主張型レポート・ライティングを学ぶ（データ収集と論証による主張法を学ぶ）
 - b. 協調学習の環境をつくる（グループの中で相互批評の作法を学ぶ）
- (2) 2～3年次中心の基礎教育（学科横断的な副専攻としてプロジェクト科目を開設）
 - a. アイデア探求力の育成（自らの問題関心を多様な知識の体系にリンクさせ深める）
 - b. 統計による論理構築力の育成（データの集中的分析・構築トレーニングを行う）
 - c. 異文化理解とコミュニケーション力の育成（多元的価値観を理解して表現する）
- (3) 4年次中心の創造教育（卒業論文やグループ研究を素材にプレゼンテーションを行う）
 - a. ジャーナルやパンフレットの編集と出版（取組の実践例を内外に広報する）
 - b. ホームページの開設と運営（取組から生まれる学習ノウハウを蓄積=共有する）
 - c. 各研究に関する発表会や討論会の開催（多角的な視点から評価を受ける）

今までの社会学部学生は学年の進行とともに各学科・各ゼミナールへと専門性を高めていった。半面、専門性を支える基礎学力やコミュニケーション力の開発は個別的な努力に委ねられていた。しかし、学生たちにとって将来の社会人としてのキャリアに狭義の専門性を活かせる範囲は限られており、4年間の学士課程が社会人としての応用力をも効果的に高める好循環となっていくためには、創造的学力の一貫した開発が求められる。

また、学士課程が社会的に有意義なものとなるためには、教育に対する評価システムの確立が必要だが、それが学習のモチベーションへつながるために、教員の評価だけでなく、学生相互の評価が効果的であり、相互チュータリングによってその基盤を整える。

学生が啓発し合う学びのコミュニティは「一人一人ハ大切ナリ」との創立者新島襄の自由主義の実践であり、自らの良心にもとづく行動力、異なる価値を受け入れ活かす国際主義という大学の教育理念ともあわせて、知育にとどまらない、21世紀グローバル社会を生き抜く専門的職業人の総合的学士課程教育の実現をめざすものである。